

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立長房中央保育園
-----	--------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「自然」

<テーマの設定理由>

- ① 園周辺に緑が多い公園が多く、身近に自然物に触れられる環境があるため ②虫などの生き物や花、木の実などに触れたり、収集したりして親しむ姿があるため

2. 活動スケジュール

10月～11月:散歩先でどんぐりを拾い、洗浄して冷凍する。

12月 :どんぐりをビニール袋に入れて踏んだり、棒でたたいたりして潰す。
:木綿の袋を折って輪ゴムで縛り、模様作りをする。
:染色前夜につぶしたどんぐりを洗濯ネットに入れて一晩水に掛け、染め液を作る。
:鍋に染め液を入れて加熱し、面の袋を浸した後、媒染液に浸して染色を行う。染色後は天日に干す。

1月 :どんぐりの形をアクリル絵の具でステンシルを入れて完成。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

鍋、電熱器、媒染液、ボウル、ザル、洗濯用ピンチ、ビニール袋、洗濯ネット、割りばし、木づち、洗面器、輪ゴム、アクリル絵の具、ステンシル用型紙、たんぽ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

どんぐり染めで袋を染めてみよう

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

散歩で集めたどんぐりを保管のために水に浸けていたところ、どんぐりのバケツの水に色が付いたことに気づき、忍者から袋をもらったことをきっかけにどんぐり染めの流れになった。年長児が「割ったほうがもっと色がつくのかな?」という提案があり、年長児を中心に交代で乾燥させたどんぐりをビニール袋に入れて踏んで割ったり、木づちでどんぐりを叩いたりしていった。皆で潰したどんぐりを再びバケツの水に浸してどんぐりから出る液の違いを見て「こっちの方が濃い茶色だね」「こっちは上の方が色が薄いね」など気づいたことを伝えあう姿が見られた。

バッグの模様作りは折り紙の折り方をヒントにして「段々に折ってみよう」、「ぐるぐるに巻いてみたい」「好きなところをゴムで止めてみたい」とそれぞれが自分のやってみたい方法でゴム止めを行った。年長児や年中児がやっている姿を見て同じ模様をつけた子は、考えた子に聞いて同じ場に集まって教えてもらいながら進めていく姿があり、「どうやるの?」「ここを押さえて反対にして折るんだよ」等伝える姿が見られ、それぞれ好きな模様を作っていた。

火を使う場面は保育者が手伝ったが、どんぐり液を煮込むことで匂いを嗅いだり、色を見たりして「色が濃くなったね」「いいにおいだね」「あまいにおいがするね」等、感じたことを友達と伝えあう姿が見られた。どんぐり液で煮たバッグを水で冷やし、自分たちでゴムを外していくと「グルグル模様ができたね」「丸がたくさんできたよ」「こっちはしましになった」とそれぞれの模様を見せ合い、喜び姿があった。仕上げのステンシルは自分で型を選んでスタンプングを楽しんだ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年長児は草花を潰してジュース作りや自然物の汁で絵を描くことを楽しんできた経験があり、今回は水に浸けたどんぐりの中で割れたどんぐりから色が出ていたことに気づいたことが活動のきっかけとなった。また、忍者から袋のプレゼントがあったことで自然物に興味をもちにくいこどもたちも興味をもって加わる姿があった。年長児を中心に活動を進めることで異年齢児へのかかわりが増え、こども達の間で思いや感じたことを伝えあう姿が見られた。袋の模様作りでは、折り紙の折り方をヒントにしているいろいろな折り方を試そうとする姿や伝えようとする姿があった。

自然物の面白さを体感して欲しいという願いをもって活動を進めていったが、今回は“染める”という活動に対して本や写真など用いて調べるための環境を整える難しさを感じた。